

株式会社新潟藤田組 代表取締役社長

ふじ た なお や
藤田 直也氏

地域密着の総合建設会社として101年。 会社と社員が共に成長する企業へ



PROFILE

1956年生まれ、新潟市出身。1980年立教大学法学部を卒業し、(株)大林組に入社。1985年に退社し、(株)新潟藤田組に入社する。1995年 代表取締役社長に就任。2002年 (株)興洋管建 代表取締役会長就任。2021年 黄綬褒章を受章。新潟商工会議所では、建設・不動産業部会の部会長と常議員を務める。

●その他、主な所属団体
新潟県建設業協会 副会長および新潟支部長
新潟市建設業協会 会長

新潟藤田組は、地域のインフラ整備から住宅・公共施設の建築、不動産管理、SDGsに基づく環境事業など、幅広い事業を手掛ける総合建設会社。社員が働きやすい職場環境づくりにも力を入れ、その取組が高い評価を受けている同社の藤田社長に、お話を伺いました。



株式会社新潟藤田組

〒951-8131

新潟市中央区白山浦2丁目645-1

TEL:025-266-1166

<http://www.n-fujita.co.jp>

101年という歴史の中で培ってきた
信用が当社の財産。経営理念にもある
“信頼の獲得”を、これからも大切に
していきたいと思えます

多角的な事業を展開。

土木事業にICT技術を積極的に導入

新潟藤田組は1925年、初代の藤田友治氏が建築請負業として創業したのが始まり。以来、時代とともに業務の幅を広げ、現在は土木・建築・住宅・不動産・環境事業と多角的な事業を展開している。「建設業は、これから形になる『未来のもの』をつくる仕事です。そのため、お客様から信頼していただくことが、受注につながるうえで非常に重要になります。当社はこれまで、発注者である国・県・市などから、優良工事として数多くの表彰をいただけてきました。こうした実績は、当社が安全・品質・施工管理などの面で高い評価をいただけてきた証であり、お客様からの信頼を築くための大きな核になっていると考えています」と、藤田社長。地域のインフラを守る土木事業では、ICT技術を積極的に導入し、3次元測量を内製化することで社員の技術力を高めるとともに、ワンストップで仕事を進められる強みもあるという。

働きやすい職場づくりを推進。

独自のカリキュラムで社員を育成

101年も事業を続けてこられたのは、「新潟で起きてきた、さまざまな災害への貢献活動が続けてきたことで、地域の守り手としての存在を位置づけられたこと。併せて、新しい技術を先行して導入するように心がけてきたことが、今日の事業につながっています」と、藤田社長。

また、同社は令和6年度「新潟市働きやすい職場づくり推進賞」の市長賞を受賞。社員が安心して長く働き続けられる環境づくりに注力し、男性育児休暇30日以上、45歳以上対象の人間ドック



2026年7月、国土交通省北陸地方整備局長より「栗ノ木道路栗ノ木高架橋下部(下り・P25-26)工事」において、優良工事表彰と優良建設技術者表彰を受賞。

全額負担、有給休暇の時間単位取得、奨学金の返還支援など、さまざまな制度を設けている。さらに社員の育成では入社から5年間、独自の育成シートに基づいて成長をサポート。着実に力を付けられるように、会社全体で後押ししている。

担い手不足という課題に取り組み 地域の守り手として存在し続けたい

新潟商工会議所では建設・不動産部会の部会長と常議員を務める藤田社長。「部会には建設だけでなく不動産の会員もいるので、さまざまな分野の講師を招き、幅広い話を聞けるのが勉強になります。また視察研修では、商工会議所の事務局が視察先との橋渡しをしてくれるので、非常に丁寧な対応をしていただける。中身の濃い視察ができるのも、会員ならではのメリットです」。

今後の展望として「建設業が抱える最大の課題は担い手不足です。その課題に取り組む中で、当社は働きやすい職場づくりと人材育成に力を入れていく。そして土木、建築、住宅、不動産事業と環境に配慮した活動を進め、地域の守り手として存在し続けられる企業を目指していきたいと考えています」と藤田社長。時代に即した経営体制を整備しながら、高い技術力と積み重ねた信頼で、地域の未来づくりに貢献していく。



新潟地方気象台 弥彦山気象レーダー局舎の建替え工事を実施。山頂の工事だったため冬の作業ができず、3年を要するプロジェクトとなった。